

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

Vol.15

2003.MAR.

発行日 / 2003年3月10日(年4回)

NPO法人 長野都市経営研究所

発行 / NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0936 長野市岡田町178-2 長野バスターミナル会館3F TEL 026-223-7900 FAX 026-223-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp

2003年を迎え、 鷺澤市長と語る

2003年初のNUPRI NEWSは、鷺澤正一長野市長と市川浩一郎理事長の対談を、滝澤芳一事務局長の司会でお届けします。鷺澤市長には、今後のNUPRIのあり方についてのお考えも交えながら、2003年の抱負をお話しいただきました。市町村合併を控えた長野市をこれからどのように運営していくのか、我々NUPRIも鷺澤市長を支援しながら活動していきたいものです。

市町村合併を控え、都市内分権を

司会 今日は鷺澤市長に2003年の抱負を対談という形でお聞きしたいと思います。我々NUPRIと市長の考えていることがどのようにマッチングするか、そのへんのところも含めてお話しいただきたいと思えます。

市川 私が理事長を引き受けてから半年ちょっとになりますが、NUPRIのあり方や目的をもっと少し考え直さなければいけない時期にきていると危惧しています。市長としてどう思われますでしょうか。

市長 私はNUPRIをベースにして市長選に出させていたわけですが、NUPRIができた当時は、オリンピックゾーンというものをものすごく意識していました。しかし、行政の中で、今年ある意味最大のテーマとなりそうなのが、市町村の合併問題だと思います。今、長野市との合併が話題になっている豊野町は、人口1万人、面積は19・90km²と非常に少ないんですが、合併を迷っている戸隠など話題にあがっている西側の町村の広さは合わせると500km²にもなります。合併すれば、長野市の面積は2倍、人口は3万人増、人口密度は一気に半分と低くなります。これだけ大きくなると、長野市の性格が非常に変わると思います。都市経営という視点でいろいろ考えて欲しいと思います。

司会 そこで、市長のよくおっしゃられている都市内分権が必要になってくるわけですね。
市長 県は中間組織で、市町村は住民にとって一番基

本的な自治体だといわれていますが、行政をなるべく市民に近いところに持つていくことを考えないといけません。自主的に決めていくことをなるべく地域の中でやってもらいたいと思います。具体的に言えば、たとえば、片方に幼稚園があつて、もう一方に保育園がある。実際やっていることはほとんど同じなのに、行政が違うものだから、予算や補助金、考え方が違って、それはおかしいということです。同様に、教育委員会にはいろいろな課がありますが、生涯学習課と青少年課、比べてみると同じことをやっていたりするんです。そういうところはひとつにしようということとして、それぞれ地域で判断運営してもらって、縦割りではなく横断的に進めていくということです。たとえば、「この仕事をどうしてもやってほしい」とおっしゃるのなら、「この仕事はやるからこっちの仕事はやめますよ、お金がないんだから」ということを言わざるを得なくなるでしょう。それを地域の中で考えて、こっちよりあっちの方が大事だからあっちをやるということ発想にしていくべきだと考えています。

司会 それが一歩の民間発想ですね。
市長 日本全体を考えてみると、国家としては、基本的には全国民に同じレベルの同じサービスを行いたいわけです。ある意味、目標としては当然です。もの本によると、「均衡の理論」というそうです。しかし今国では「自治の理論」ということを言い始めています。自治とは、地域で決めようということ。そうなるとう当然、均衡にはならないわけです。均衡と自治は矛盾していて、両方一緒にはできないんです。そこで、合併がらみの話になるんですが、都市内分権をして、それぞれ自分たちの地域のこと自分たちで決めようということになるんです。たとえば、長野市が豊野町と合併するとして、豊野の人たちにとって、ベースになる市民サービスは長野市民になってもそう変わらないはず。もちろん部分的に豊野の方がよいところ、長野の方がよいところなどはあると思いますが、平均すればほぼ同じであるはず。まあ、これからは財政的にそれではやっていけないという部分もあつて合併するわけですが、サービスが同じとなると、合併し

たくない人の心情は、町の名前をなくしたくないということと、「役所が遠くにいつてしまった」という感覚だと思えます。松代や篠ノ井に行くと、いまだに「昭和41年の大合併は失敗だった」という人がいます。そこで何が失敗だったか聞くと、具体的な答えはあまり返ってこないんです。具体的にはないけれど行政が遠くになってしまったという感覚があつて、それでは困るということらしいです。都市内分権という非常に強い言葉だと思えますが、この言葉の意味は、地域で決められることはある程度地域で決めるということで、地域住民による地域独自のまちづくりが図れるようなシステムをつくっていかねばいけないと思います。

司会 いわゆる区のような発想でしょうか。
市長 政令指定都市になれば区はできません。選挙区も分けられます。しかし、長野市は政令指定都市ではないのでそれはできません。都市内分権とはいふものの、どうやって進めていこうか、なかなか厳しいなと感じながらも行動を起こしているわけです。そんな中で昨日、片山総務大臣が合併にあたってそれぞれの地域をどうするか、地区の中の分権について考えなければいけないということ初めて談話として発表しました。大臣が発表するということは、そういう方向性が考えられているということ、片山大臣の発言は、我々にとって非常に追い風になると感じました。



市川 島根県では、浜田市に金城町が合併しようとしていますが、合併すると金城町はなくなってしまうわけですが、金城町は歴史的に非常に重要な地名だからぜひ残しておきたい、そこで区にしてはどうか、浜田市金城区にすればいいということ、町長が政府にピールをしようとしているそうです。長野市も同様に、合併後に松代区、豊野区などをつくれれば、名前が残ります。ぜひおすすしめしたいですね。



市長 ただそれをやると、長野市の場合、昔の町村も合わせて26もの区を残さなければならぬという難点があるんですよ。人数で区切るとか、どこかだけ特別に認めるというわけにはいかないですからね。そこで、26区を残して、その代わり、その上に行政区と付ける。行政区の松代とか若穂とか。ただこういう発想を皆さんが納得できるかどうか。何とかして地名を残していきたいという思いはあります。いずれにしても、都市内分権はどうしてもやらなといけないと思っています。

民営化を進めてコスト削減を

市長 もうひとつ、何が何でもやらなければならぬテーマとして、民営化があげられます。私は民営化することによって行政のコストを下げたいと思います。と同時に、民営化によってサービスの質も上げていこうという発想です。たとえばPFIも同様で、PFIというのは公共事業を民間のお金を使ってやろうということがベースにあります。その後のサービス

も全部やってもらうことによって、行政がやるよりはるかにコストが下がって民間も儲かるという発想ですよ。そういう点で、私はぜひ民営化を進めていきたいと思っています。

今、学校給食センターの民営化が話題になっています。新聞によると、長野市の職員労働組合に対して正式に提起されていて、大変な反発を受けているということです。反対の人たちのピラなどを見ると、中心としては遺伝子組換や輸入食品の問題を取り上げているようです。私もいろいろ研究して、全面的に民営化することはできないと考えています。なぜかというところ、学校給食というのは、材料費は親の負担、加工費は行政の負担なんです。民営化して資材などを安くしたところで、親の給食費が少し減る程度で、民間の事業者には何のメリットもないんです。メリットを出してはいけませんから、努力のしがいがないんですよ。ただこういことだけが理由ではないのですが、これまでどおり給食センターには市の職員を置いて、栄養管理は県の職員、食材の購入は市で行い、調理業務等の一部を民間に委託するという考えでいます。行政を信頼して行政にやってもらうのが安全だと考えていた人がいることは大変ありがたいことではあります。反対をしている方々の反対論というのは的外れだと思っています。このことは、市から職員労働組合に対して提示している段階です。

では、長野市でほかに民営化しているところはないのかというと、市民病院はオールアウトソーシングです。お医者さんや看護師さん、技師の皆さんなどは病院で雇用している職員ですが、それ以外の受付事務から食堂まですべてアウトソーシングです。本当に評判がよくて全く問題ないですね。そのほか、大峰の斎場も昨年4月から火葬業務を民間委託し、非常に好評でコストも下がりました。農業共済を民営化しようという話もあります。また、NPOにお任せしたいと考えているところもあります。たとえば、八幡原の公園は閉園時間が早すぎるということがよく言われています。そこで、地元の方で公園の管理会社をつくって長野市から請け負ってどうかと提案したいと思っています。その代わり、今長野市で受けている不満や要望はみんなそちらにいきますから覚悟してく

ださいとお話をしました。このように、あらゆることを民営化していくとと考えています。

司会 このような市の情報を提供するにあたって、県のようにテレビを使うなど、いろいろな方法を模索していかねばなりませんね。

市長 インターネットを利用して配信している長野市メールマガジンは、購読者が現在1500~1600人程度とまだまだ少ないです。もっと有効的にピールできる方法を考えていきたいですね。

課題が多いゴミ対策

市長 そのほかにもどうしても解決しなければならぬこととして、ゴミ問題があげられます。長野市にとって都市の生命にかかわる問題だと思っています。清掃センターのある地元に住む方々には本当にお世話になっており、公民館建設補助や区画整理をしたりしてきました。古くなつたサンマリーナなどの今後の在り方についての検討など、これからももっと周辺環境整備をしなければならぬと思います。現在のゴミ処理場は煙もきれいでにおいもありませんから、問題をあげるとすると、背の高い大きな建物の威圧感だと思っています。そこで、お金がかかりますが、半地下にする方法もあるのではと思っています。

それにしても、長野市のゴミは増える一方で本当に困っています。ゴミの量は燃やすことによつて約10分の1になり、さらに灰を溶融すると半分になるので、もともとのゴミの5%ぐらいいまではなりません。確かに量は減りますが、最後にはどうしても埋め立てなければならぬんです。灰を溶融したものはガラス状のものになるので、これを公共工事を含めいろいろなところで再利用すればいいといいますが、長野市の場合には小さな村と違ってこれが桁違いに多いんです。まず、さばいていけるルートを開発しておかないといけません。生ゴミをコンポスト化するという方法も考えられますが、田舎の方ではいいんですが、都市でやると塩分が強く肥料にならないという話があります。塩分を抜く作業が非常に大変で費用がかかり、しかも量が多すぎてさばききれない。結局は燃やすより仕方がないんですよ。

市川 私が住んでいる更埴市のゴミ対策はしっかりしています。更埴市では自分が出すゴミ袋に、名前とバーコードが付いたワッペンを必ず貼って出し、貼ってない物は収集せず、収集時にはバーコードをチェックして、ゴミの総量等のデータを集め次年度のワッペンの配布数の参考資料にし、また各家庭でワッペンが不足したら1枚50円で買ってもらうというシステムで、このシステムが導入されて以来、現在では当時よりゴミが2割ほど減つたそうです。

市長 出たゴミに自分の名前を付けてチェックするなんて、個人情報保護ということから市民の理解が得られないと長野市では絶対できないですよ。

市川 導入したのは一昨々年ぐらいからで、更埴市では何の問題もなくやっています。市の規模が大きいからできないなんてことはないと思います。更埴市も3万8千人の市民がいるわけですから。行政がうまくリードをしていかなければならない。

市長 更埴の市長に一度お話を聞きたいですね。ただ、有料化することは長野市でも真剣に考えています。有料化すればゴミの量は減りますよ。一番困るのは、間違いない不法投棄が増えること。そのことと兼ね合いですかね。長野市では、ゴミを焼却したり埋め立てたりすることに41億円かかっています。私が都市内分権をしようと言っている背景には、地域分権だから地域ごとにゴミを処理しなければならぬ時代がくるかもしれないということもあるんですよ。いずれにしても、いろいろなことを行つてゴミ問題を解決していかなければなりません。

高齢化が進む中での公共交通機関の整備

市長 もうひとつの課題として、公共交通機関のことがあげられます。去年の8月からバスの実験をしてみました。うまくいきませんでした。一番ひどい区間では、1便あたり1・5人ぐらしか乗ってないんです。一度始めたことをやめるのは非常に難しいんですが、約束ですからやめるという方向で、地元で話し合いをしてくださいということになっています。当初は10人乗ることを条件付けたんですが、実際は共

和地区で1・5人、一番乗っている若穂でも4人ほどと、遠く及びませんでした。

これから長野市と合併をするかしないかという地域にとって、公共交通機関のことは大問題です。これらの地域は高齢化が非常に進んでいるんです。ちなみに、長野市は高齢化率（65歳以上人口）19・2％で、統計的に毎年0・5％ずつ上がっていき、2年後に20％になるのは間違いありません。その中で地域的に見ると、七二会や小田切あたりで約35％、中心市街地はだんだんお年寄りの町になっていてほぼ25％、逆に平均より低いところは中間地帯です。若い人はいいんですよ、自分の車で出かけられますから。運転できない70、80歳の人をどうするか。合併後に高齢化率が上がるであろう長野市にとって、公共交通機関をどうするかということは大問題です。

先日、慶応大学の島田教授と話をする機会があったんですが、島田教授いわく、基本的にバスは空気を運んでいるんだから駄目だっていうんです。ではタクシーはどうかというところ、見積もりを取るとタクシーは非常に高い。でも、島田教授の論理からすると、タクシー会社にとっては乗車率の問題だから、稼働率を上げてあげるといふ方向で考えればいいと。長野市のタクシー乗車率というのは非常に低いんですよ。たとえば、乗り合いタクシーをつくって、それをコーディネートする人をおき、デマンドすればいいんです。長野市で国土交通省の実験をぜひやりますよという話をおきました。これはやるべきです、やらざるを得ないですよ。デマンドタクシーを使うということになったら、その分の費用はなるべく払ってもらったつもりです。ボランテアがタクシーを運転するということでもいいけれど、有償で運送することは、法律的に難しい面があるんですよ。

合併がらみの問題で、都市内分権、民営化、ゴミ問題、公共交通機関をどうするかということとは、長野市にとつてどうしても解決しなければならぬ問題です。ひっくり返って考えると、都市経営の発想に加えて、中山間地の経営をどうするかが発想になります。現在の長野市にしても、面的には大部分が山間地なんです。そういったところの経営をどうするか、行政に課せられた問題だと思えます。

花や水路で中央通りを

魅力ある通りに

市長 センタービルに関しては「もんぜんぶら座」という愛称が決まりました。中央通りのモ

イル化については、中央通り全体では反対の人がいてなかなか難しいので、部分的に進めていけばよいと思います。まず、パテオから信金のところまでをモジュール化してはどうでしょう。バス一台分だけ通れる路線を真ん中につくり、周りに花を植えて野外彫刻を集中的に立てるんです。それからもうひとつの考え方としては、大勸進の池の水をあそこまで流してみるとか。昭和通りの角までは、今までは県道だったんですが、今度、市道になるんですよ。そんなこともあって、中央通り全体をやるうとする「反対の人も出てきて無理だと思えますので、とりあえずできるところだけでもやってみないか」ということです。昨年、インフィオラータをやってみて一番よかったこと、なるほどと思ったことは、道路を花畑にするという使い方があることを示せたことです。道路というのは車や人間が通るも

のだと思っていました。インフィオラータでは車や人間を排除して、道路そのものを花畑にしたんです。このような発想で考えると、水を流すというのもいいですね。でも、斜面に水を流すというのはなかなか難しいんですよ。ス



ピートを落とさないといけないですから。市川 利権の問題の方が難しいですよ。鐘鑄川の

市長 鐘鑄川を説得するのはおそろしく難しいですね。鐘鑄川の水は、実は吉田の駅のところからショートカットして浅川へ出しているんです。それだけ浅川に負担をかけているんですよ。それに対して、下流に住む人たちが、浅川ダムができないならあれを止めてくれと言っているんです。今までの経過からしてもいろいろ難しい問題があるんですよ。

司会 水は循環でもいいのでは？ お金がかかるなら夜はやめて昼間だけ循環させるとか。コストはかかっても、将来の長野市のためですから…。それに、川は端っこに通すのではなく、道の真ん中を通すべきだと思いますよ。昔、川は両側から利用していたでしょう。

市長 いずれにしても、今の状況の中で考えると、中央通りはいろいろな可能性を秘めています。人間が歩きたくなる街にしたい、そのためにはどうすればいいか、真剣に考えていきたいと思っています。駐車場への道は確保しながら車の通行を制限して、お花畑なり水路なりをつくる、これが私の今の夢です。

長野市の事業に支援を

市長 NUPRIにお願いしたいこととしては、私が今お話したことなどをやるうとしたとき、議論した上でぜひ支援をしていただきたいということ。何かやるうとすると必ず反対運動が出てきます。これは仕方がないことで、私は私できつちりと答えていきますが、そのときに賛成の声というのはなかなか出てこないものなんです。やってほしいと思っていながら賛成の声は出てこず、反対の声だけが出てくる。支援のような声が上がってくると、非常にやりやすいわけです。これからNUPRIの皆さんには、長野市の事業に様々な形でご支援をいただきたいと思えます。

司会 本日はお忙しい中、ありがとうございました。我々NUPRIとしても、今後の長野市の事業に対して積極的に提言や取り組みを行っていきたいと思っております。

みんなの街を みんなで創ろう

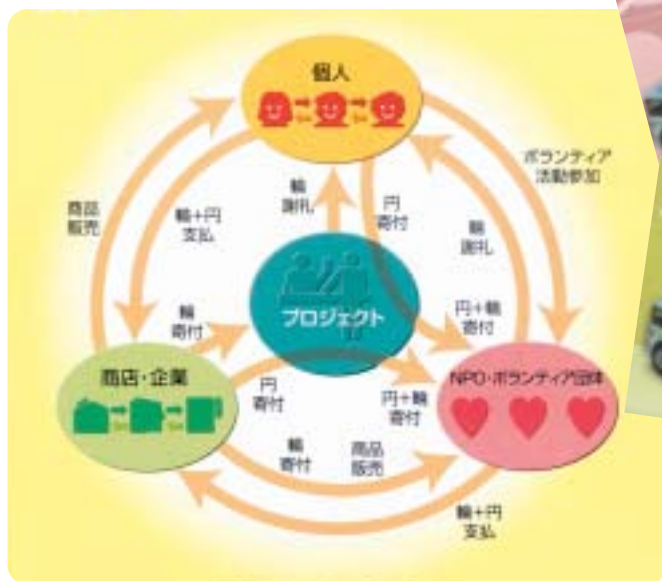
ありがとうの出会い

地域通貨 **なごのリング**

有効期間 2002.10.13→2003.3.31

長野市の商店街の活性化を願って、長野県商店会連合会と地元ボランティアの有志が「地域通貨なごのプロジェクト」を起ち上げました。セントラル・スクウェア内に事務所を構え、昨年10月から地域通貨「なごのリング」を発行しています。

この「なごのリング」は、長野の地域のために「役立つこと」をした人に渡される地域通貨です。「役立つこと」とは、長野のために活動するNPOやボランティア団体を応援すること。これらの団体の活動に参加することで、それぞれの活動に応じた額の「なごのリング」を受け取ることができます。また、これらの団体に寄付をすることで、その謝礼として受け取ることができます。寄付されたお金は、NPOやボランティア団体の貴重な活動資金となります。



入手した「なごのリング」は、77店もある「なごのリング参加店」で買い物をしたときに、その支払いの一部として使用することができます。「なごのリング」の通貨単位は「輪」で、つながり・循環の意味を持ち、円と同等に使うことができます。個人間でお礼の気持ちとしてやりとりするなど、様々な利用が可能です。

「なごのリング」を使うことにより、地域内で経済の循環と善意の循環が起り、地域への貢献と活性化につながります。誰もが地域の役に立つことができるのです。現在発行されている「なごのリング」は、有効期限が3月31日までですが、4月以降も変更を加えられた上で引き続き運営される予定です。

NUPRIのホームページがリニューアルしました。ご覧下さい。



<http://www.nupri.or.jp/>

「善光寺御法燈渡し」

2002年12月31日、セントラル・スクウェアは、1998年の長野冬季オリンピック表彰式会場として市民の皆さんに親しまれ、その後も様々なイベントの会場として活用されています。このイベントは、1999年から毎年行われており、その一部をNUPRI有志が担っています。4回目となった今回も、大勢の方々の参加により賑やかなイベントとなりました。

